

水害から身を守るために

6月～10月頃は出水期といって、集中豪雨や台風等で水害が起きやすい時期です。
身を守るために日ごろから備えておきましょう。



日ごろの備え CHECK 01

側溝や雨どいのこまめな点検と掃除！

身近な水害の原因として…

側溝や排水マスにごみや落ち葉が詰まっていると

雨水が下水に流れ込めずにあふれてしまう

雨どいが壊れていたり、ごみや落ち葉が詰まっていると

軒下や壁に回り込んだ水が雨漏りの原因になる

日ごろの備え CHECK 03

備蓄品、避難用持ち出し品の準備！

- 飲料水、食料はもちろん、停電に備えて懐中電灯やラジオも必要
 - 浸水しているとトイレが流せないため、携帯用トイレは必需品
 - 着がえとタオルも忘れずに
- 濡れたままだと夏でも低体温症の危険がある



毎月21日は、城東区「災害に備える日」です

毎年7月に入ると雨が多くなります。2018年7月の西日本豪雨では、停滞していた前線に台風の影響が重なり、西日本を中心に長時間にわたり記録的な大雨による河川氾濫や土砂崩れが発生し、245人の方が亡くなりました。水害ハザードマップ等でお住まいのエリアの危険性を確認し、いざという時にどう行動するかを日ごろから考えておきましょう。



土砂に押し流された家屋(広島県安芸郡)
出典：(一財)消防防災科学センター・災害レポートより



問合せ：市民協働課(防災・防犯) ☎ 6930-9045 ☎ 6931-9999

水害ハザードマップ(城東区) ▶

日ごろの備え CHECK 02

自宅避難が可能かどうかを確認！

- ①自宅が最大何メートル浸水するかをハザードマップで確認する
自宅上階で浸水进行を避けることができるならば、大雨の中を避難所に行く必要はない
- ②自宅で浸水进行を避けることができない場合は、マンション上階などの知り合いに、避難させてもらえるよう頼んでおく
- ③近くに頼める知り合いがいない場合は、水害時避難ビルと安全な避難ルートを確認しておく



▲水害ハザードマップ(城東区)



大雨(台風)の当日は

- 不要不急の外出は避ける
- 警戒レベル情報に注意して早めに行動する
- 避難するときに長靴は履かない
長靴に水が入ると、重く歩きづらくなる
- 避難するときは傘や長い棒で地面をつつきながら歩くに
ごり水のために側溝やふたの外れたマンホールなどの危険箇所が見えないことがある

ここもチェック！

- ◎自宅避難・知人宅避難でも、できるだけ安全な状況を作りましょう
- 雨戸やカーテンをしっかり閉める
- 窓際には近づかない

早めに避難行動ができるよう
警戒レベル情報は要確認！！

警戒レベル5 緊急安全確保	既に災害が発生または切迫している状況。命の危険があるため、直ちに身の安全を確保する。	市町村が発令
警戒レベル4 全員避難	危険な場所から全員避難する。公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や自宅内のより安全な場所に避難する。	
警戒レベル3 高齢者等避難	危険な場所から高齢者等は避難する。その他の人も、危険を感じたら自主的に避難する。	
警戒レベル2 避難行動の確認	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認する。	気象庁が発表
警戒レベル1 心構えを高める	災害への心構えを高める。	



城東区水害時避難ビルマップ

令和4(2022)年5月現在 凡例 ○避難ビル

